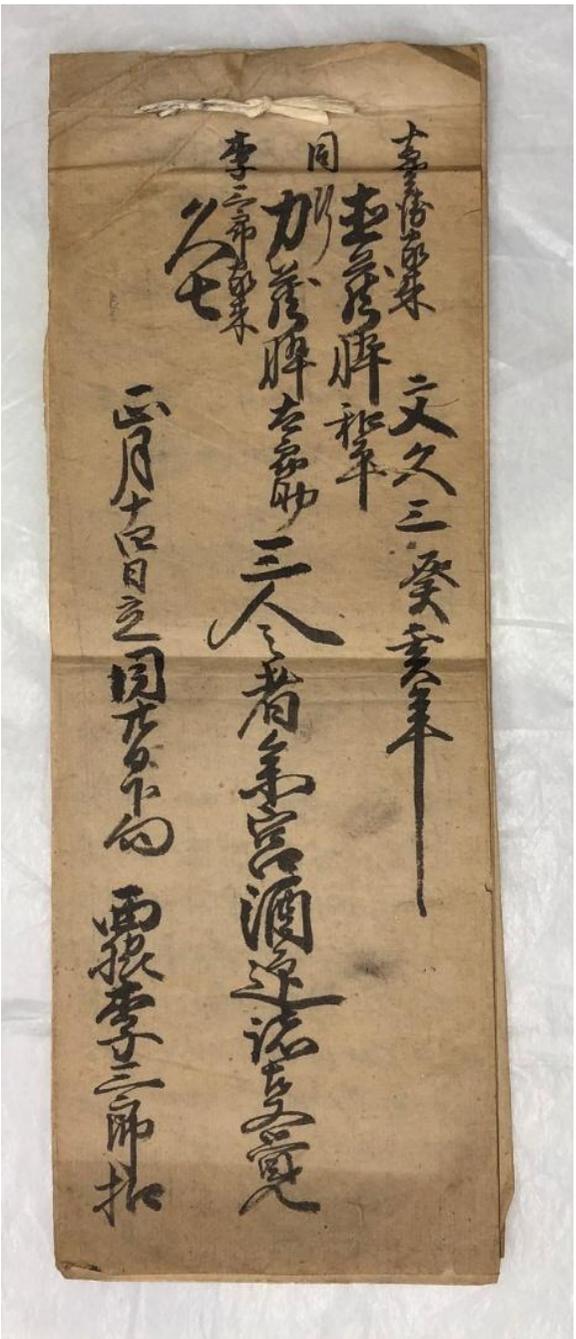


令和七年度 歴史資料館古文書講座（第三講座） テキスト

文久三年（一八六三）多芸郡龍泉寺村の酒（坂・境）迎えに関する史料

「文久三文久三癸亥年 三人之者参宮酒迎諸事覚 正月十四日立同廿日下向 西脇李三郎扣」より

（西脇家文書 岐阜県歴史資料館蔵）



（表紙）

「 文久三癸亥年

嘉兵衛家来

直藏悱和平

同断

力蔵悱太郎助

三人之者参宮酒迎諸事覚

李三郎家来

久七

正月十四日立同廿日下向

西脇李三郎扣」

参宮同者

直藏 和平

力藏 太郎助

久藏 久七

三人

右正月十四日立二而廿日下向

酒迎之覚

九年以前参宮者有之之迎之

入用百五拾文余ツ、迎方之

割賦当り候様其節二八当年ハ

格別諸色高直ニも有之尚又

御上様ニも種々御心配多之

時節二付諸事實素之ため

酒迎之義身寄之者ハ格別

村方一同村南野迄限り二而

迎候而は如何哉之旨久兵衛方

二而十郎兵衛李三郎久兵衛三人

談之上和吉相招一同之相談

候様申遣候処直に其夜一同二

相談申候而翌日久兵衛方へ向

申越候ニは成丈ケ戻り道

質素ニ可致候間矢張り先々  
通養老河原迄下方之分ハ

参宮同者

直藏 和平

力藏 太郎助

久藏 久七

三人

右正月十四日立二而廿日下向

酒迎之覚

九年以前参宮者有之之迎之

入用百五拾文余ツ、迎方之

割賦当り候様其節二八当年ハ

格別諸色高直ニも有之尚又

御上様ニも種々御心配多之

時節二付諸事實素之ため

酒迎之義身寄之者ハ格別

村方一同村南野迄限り二而

迎候而は如何哉之旨久兵衛方

二而十郎兵衛李三郎久兵衛三人

談之上和吉相招一同之相談

候様申遣候処直に其夜一同二

相談申候而翌日久兵衛方へ向

申越候ニは成丈ケ戻り道

質素ニ可致候間矢張り先々

通養老河原迄下方之分ハ

力違ふ旅の打取亦違ふ法  
入用之義は以前とハ諸色格  
段の高値に候得共仕込み方都而  
減少いたし迎之者老軒分二而  
百四十八文ツ、取集其余之  
分ハ村方有合セ之野菜品  
相集メ右二而相済呉候様ニと  
下方惣代として

久兵衛方へ向申参り候  
故可然と相決其趣ニ取斗候事  
同十九日和藏忰初弥仙松  
式人野菜之品集ニ参り大根  
式本午房三本遣ス  
同日右百四十八文之割賦分  
丹七周吉取ニ参り相渡遣ス  
料理宿ハ勘助方之由

廿日迎之之覚  
先例之通頭分之者ハ村南迄  
迎候事 李三郎十郎兵衛  
久兵衛大藏ハ四人村南野迄  
罷出候、右饗応方直藏  
赤飯結ビ式重  
午房煎付ニゴマかけ一重  
人餐大根煮たつくり

會方根たつくり  
老の樽 壺ツ  
に付 一重

遣ひ樽 壺ツ  
に付 一重

右之通同者三軒分之馳走  
 之由ニ而直藏より差し遣ス  
 村方惣迎方之馳走之分  
 赤飯結ビ 二重  
 午房に付 壺重  
 牛房あふらけ 壺重  
 小も大根にんじん  
 午房あふらけ 壺重  
 おからいり 壺重  
 右之通頭分席へ差出ス  
 尤皆々村南迄迎帰り候上  
 右之馳走差出候間酒は  
 壺樽ニ不限此所ニ而又々一同  
 酒ヲ吞帰ル  
 頭分ニ而も小供者皆々養老  
 河原迄行候事  
 覚之助 柴多 東吾 大十郎  
 右ハ養老河原迄村人一緒ニ行  
 おたき おしゆう 捨の おミか  
 おしゆう おかつ おつよハ病氣  
 右之女共頭分席迄迄皆々

右之通同者三軒分之馳走  
 之由ニ而直藏より差し遣ス  
 村方惣迎方之馳走之分  
 赤飯結ビ 二重  
 午房に付 壺重  
 牛房あふらけ 壺重  
 小も大根にんじん  
 午房あふらけ 壺重  
 おからいり 壺重  
 右之通頭分席へ差出ス  
 尤皆々村南迄迎帰り候上  
 右之馳走差出候間酒は  
 壺樽ニ不限此所ニ而又々一同  
 酒ヲ吞帰ル  
 頭分ニ而も小供者皆々養老  
 河原迄行候事  
 覚之助 柴多 東吾 大十郎  
 右ハ養老河原迄村人一緒ニ行  
 おたき おしゆう 捨の おミか  
 おしゆう おかつ おつよハ病氣  
 右之女共頭分席迄迄皆々

此所へ帰り候上参り何れも  
 酒食ス  
 但し下方之女共と同席ハ  
 不致頭分之席之辺ニ而  
 頭分女共も居候  
 同廿一日参宮人三人前之土産  
 として御祓い壺枚しやくし  
 式本塗箸五膳右下向之者  
 持参  
 久七八手前方家来之義殊ニ  
 右様之事ニ先方よりも氣を付  
 候者故廿四人之高田とうふ  
 切手ニ而式丁見廻りとして  
 二三日相過遣ス